

歴史と文化の縁

漱石と八雲

ゆかりのまち

新宿区は、明治の文豪・夏目漱石や小泉八雲が暮らし、生涯を閉じたまちです。

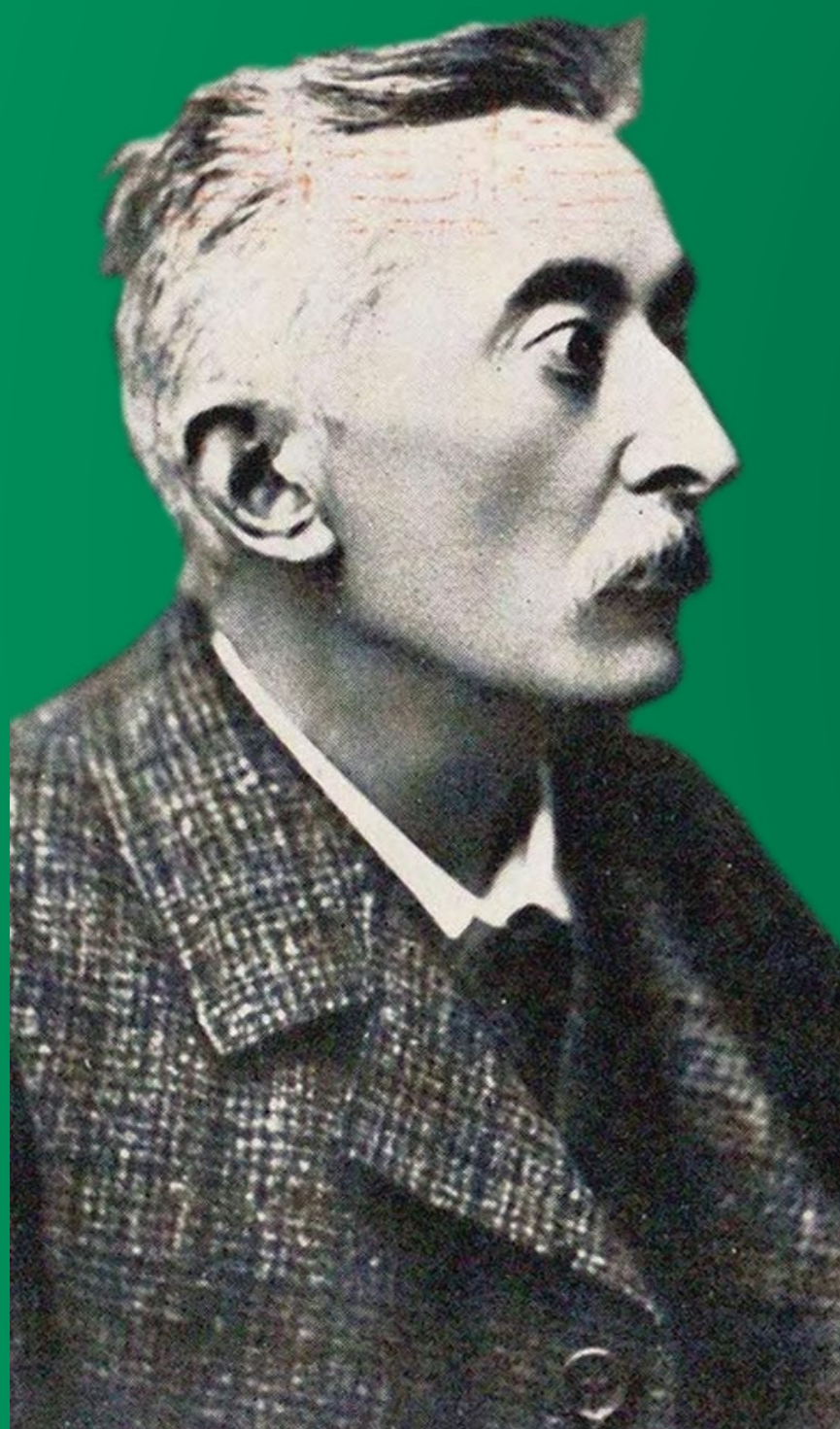
夏目漱石は、現在の新宿区喜久井町で生まれ、松山を経て**熊本県**の旧制第五高等学校(現熊本大学)に赴任し、約4年間を過ごしました。イギリス留学から帰国すると本郷千駄木(現在の**文京区**向丘)に居を定め、この地で作家デビューしました。そして晩年の9年間、現在の新宿区早稲田南町、通称「漱石山房」で暮らし、『三四郎』『それから』『こころ』など代表作の数々を執筆しました。



熊本市 漱石内坪井旧居



小泉八雲は、ギリシャで生まれ、アメリカでジャーナリストとして活躍したのち来日し、松江を経て**熊本県**の旧制第五高等中学校に赴任し、約3年間を過ごしました。その後東京帝国大学(現東京大学)で教鞭を執るため上京し、現在の**新宿区**富久町や大久保に居を定め『心』『怪談』『骨董』などを執筆しました。



熊本市 小泉八雲旧居

このように、新宿区と熊本県、熊本市、文京区は、漱石と八雲ゆかりのまちで、二人の足跡や作品をたどる上で重要な都市です。

一方、**文京区**には、江戸時代に旧**熊本**藩細川家の下屋敷がありました。下屋敷の庭園は昭和36(1961)年東京都が買収して新江戸川公園として整備し、昭和50(1975)年に文京区に移管されました。文京区は細川家の学問所「松聲閣(しょうせいかく)」の耐震工事と庭園の再整備を行い、区立肥後細川庭園と改称しました。なお近隣には、永青文庫(細川家伝来の美術品等を所蔵する美術館)や和敬塾(旧細川侯爵邸)もあります。文京区は、熊本藩細川家の江戸・東京での重要な拠点であり、古くからつながりがありました。

熊本藩細川家と江戸・東京

肥後細川庭園

